

大学

企画課管理用 管 ー D ー 2

推進主体	学長室広報センター
責任者	学長室部長

分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
管	ー	D	②戦略的広報による学習院大学ブランドの発信強化	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

学習院大学は、「伝統がある、礼儀正しい、上品である」というイメージが定着している。このような固定化されたイメージに捉われず、今の姿を知ってもらうために、研究教育活動をどのように伝えていくのが効果的なのか、本学の特色や強みを改めて整理した上で検討する。また、受験生や保護者、在学生、卒業生、教職員、地域住民等様々なステークホルダーに向けて、必要な情報がしっかりと届くように、ホームページやSNS、大学案内、各広報媒体等それぞれの特性を活かして継続的に情報を発信する。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

ブランドの発信強化に向けて、何を発信するのか改めて整理し、各媒体の特性を活かして、継続的に情報発信をする。

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定		→ 発信する情報の整理、内容を検討			→ ブランディングに向けた継続的な情報発信		

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
（ 令和4年度 ）	ブランディングとして何を伝えていくか、発信する情報を整理し、検討する。また、今後、大学ホームページや受験生サイト、大学案内のリニューアルを予定していることから、各媒体でどのように伝えていくかも検討する。	大学案内及び大学ホームページのリニューアルを次年度に予定しており、本学の教育力、研究力をしっかりと伝えられるよう、内容を整理して制作を進めている。引き続き、冊子とWEB、それぞれの特性を活かし、効果的な情報が発信できる構成を検討していく。 ★進捗段階:「実施展開」
（ 令和5年度 ）	大学案内は令和5年5月、大学ホームページは令和5年7月にリニューアルを予定している。大学案内で発信する情報については、訴求力を高めるために、大学ホームページだけでなく、動画や大学説明会で使用する資料等、他の媒体と連動させることを検討している。	5月に大学案内のリニューアルに伴い、本学の教育研究の特色をわかりやすく伝えるために情報を整理し、全体の構成やデザインの見直しを行った。また、「ここある革新」というキーワードを用いることで、伝統的なイメージだけでなく、まだ十分に伝わっていない本学の特色を打ち出すための工夫を行っている。 7月にリニューアルした大学ホームページでは、ユーザの利便性向上とともに、大学案内との連携により相乗効果を図っている。高校説明会や学外の進学相談会等で使用する資料についても、大学案内の内容に合わせることで、訴求力を高めている。 ★進捗段階:「実施展開」
（ 令和6年度 ）	大学案内及び大学ホームページに続き、受験生サイトのリニューアルを進めている。イメージに捉われない本学の特色や魅力を理解してもらうために、情報発信ツールをしっかりと整えた上で、それぞれの特徴を活かし、効果的な情報発信を目指す。	大学案内及び大学ホームページに続き、受験生サイトのリニューアルを行い、主要な広報ツールの見直しが終了した。訴求内容の明確化と情報の整理を進めるとともに、各媒体の連携を強化したことで、発信力の向上を図っている。 また、令和8年度に予定している女子大学との統合に向けて、特設サイトの制作等広報活動の準備を進めており、ブランドの発信強化を目指している。 ★進捗段階:「実施展開」
（ 令和7年度 ）	令和8年4月に計画している女子大学との統合に伴う学習院大学の新学部開設に向けて、特設サイトの開設や広告出稿など、特別な広報活動の展開を予定している。ブランド発信を強化する重要な機会として、認知度向上や新学部の魅力を効果的に伝え、その実現を目指している。	